平成 24 年 12 月 20 日

環境活動レポート

2012 年

対象期間　平成 24 年 1 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日

株式会社長塚電話工業所

エコアクション21
認証・登録番号0001360

目　次

■環境方針 ・・2
■事業活動の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
■EA21 推進組織図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
■環境目標とその実績（環境負荷実績と環境目標比較） ・・・・・5
■環境活動の取組みと評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
■環境関連法規制の遵守状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

■環境方針

＜基本理念＞

当社は、地球環境保全が人類共通の重要課題であることを認識し、社会の一員として、地球環境の保全と向上に貢献すべく、環境マネジメントシステムを経営の一環として取組み、全ての事業活動において環境保全に配慮した継続的な行動を推進します。

＜行動指針＞

当社は、すべての事業活動が環境に何らかの影響を及ぼしていることを認識、理解した上で、情報通信機器の商品の開発・製造・販売及びメンテナンスの事業活動においては特に、以下の環境保全活動に積極的に取組みます。

1. 事業活動の全領域で、安心・安全を基本とし、資源・エネルギーの有効活用、汚染防止、廃棄物の削減・適正処理及び製品のライフサイクルを通した環境配慮製品開発及びサービス業務を推進します。
2. 環境に関連する法規制及び各自治体の環境条例、協定及びその他当社が同意する要求事項を遵守すると共に、可能であれば自主管理基準を設けて環境管理レベルの向上を図ります。
3. 次の事項を重点的なテーマとして、環境目標を設定し、その活動状況を環境マニュアルに沿って定期的に確認、評価、改善を行います。
   (1) 電気エネルギー等の節減によるC02 の排出抑制、総排水量及び廃棄物の排出抑制を図る。
   (2) 化学物質の適正管理を図る。
   (3) 製品に関する環境配慮の推進を図る。
   (4) グリーン購入の推進を図る。
4. 基本方針の周知徹底のため、環境教育、社内広報活動の実施により、全従業員が結束して環境マネジメントシステムの維持向上を図ります。
5. 環境保全関連の行政機関、団体や地域社会における環境保全活動に対し、積極的に参画し社会貢献を推進します。また地域住民、利害関係者との双方向環境コミュニケーションをとり、環境改善を誠実に対応します。
6. 環境活動レポートは、社内外に公表します。

2006 年 9 月 1 日制定
2010 年 1 月 1 日改定
2012 年 1 月 1 日更新

株式会社　長塚電話工業所

代表取締役　長塚　将

■事業活動の概要

1.　事業者名及び代表者名

株式会社　長塚電話工業所
代表取締役　　長塚　将

2.　所在地

【高津営業所】EA21認証・登録範囲
〒213－0013　神奈川県川崎市高津区宇奈根643－3
【本社】EA21認証・登録範囲
〒152－0004　東京都目黒区鷹番2－11－1
【西日本ソリューション事業部】EA21認証・登録範囲
〒550-0002　大阪府大阪市西区江戸堀2－1－1　江戸堀センタービル9階
【ソリューション事業部分室】平成 24 年 5 月開室
平成 25 年 2 月 1 日 EA21認証・登録範囲の審査予定
〒105－0022　東京都港区海岸1－2－3　汐留芝離宮21階

3.　環境管理責任者及び担当責任者連絡先

環境管理責任者：技術部長　　原田　孝雄
担　　当　　者：EA21 推進事務局　　岡田　あい子
連　　絡　　先：電話　044－850－1533
FAX　044－850－1534

4.　事業内容

情報通信機器の製造販売及びネットワーク関連システム販売

5.　事業の規模（2012 年 12 月 31 日現在 ）

従業員数
■株式会社長塚電話工業所　　17 名（本社1名　高津13 名　西日本3名）
株式会社ビューテックは2012年9月 1 日をもって、株式会社長塚電話工業所に吸収合併となりました。

(2)敷地面積　　総延床面積　282㎡
【内訳】
■株式会社長塚電話工業所　本社　　約79㎡
■株式会社長塚電話工業所　高津営業所　　約175㎡
■株式会社長塚電話工業所　西日本ソリューション事業部　約16㎡
■株式会社長塚電話工業所　ソリューション事業部分室　　約12㎡

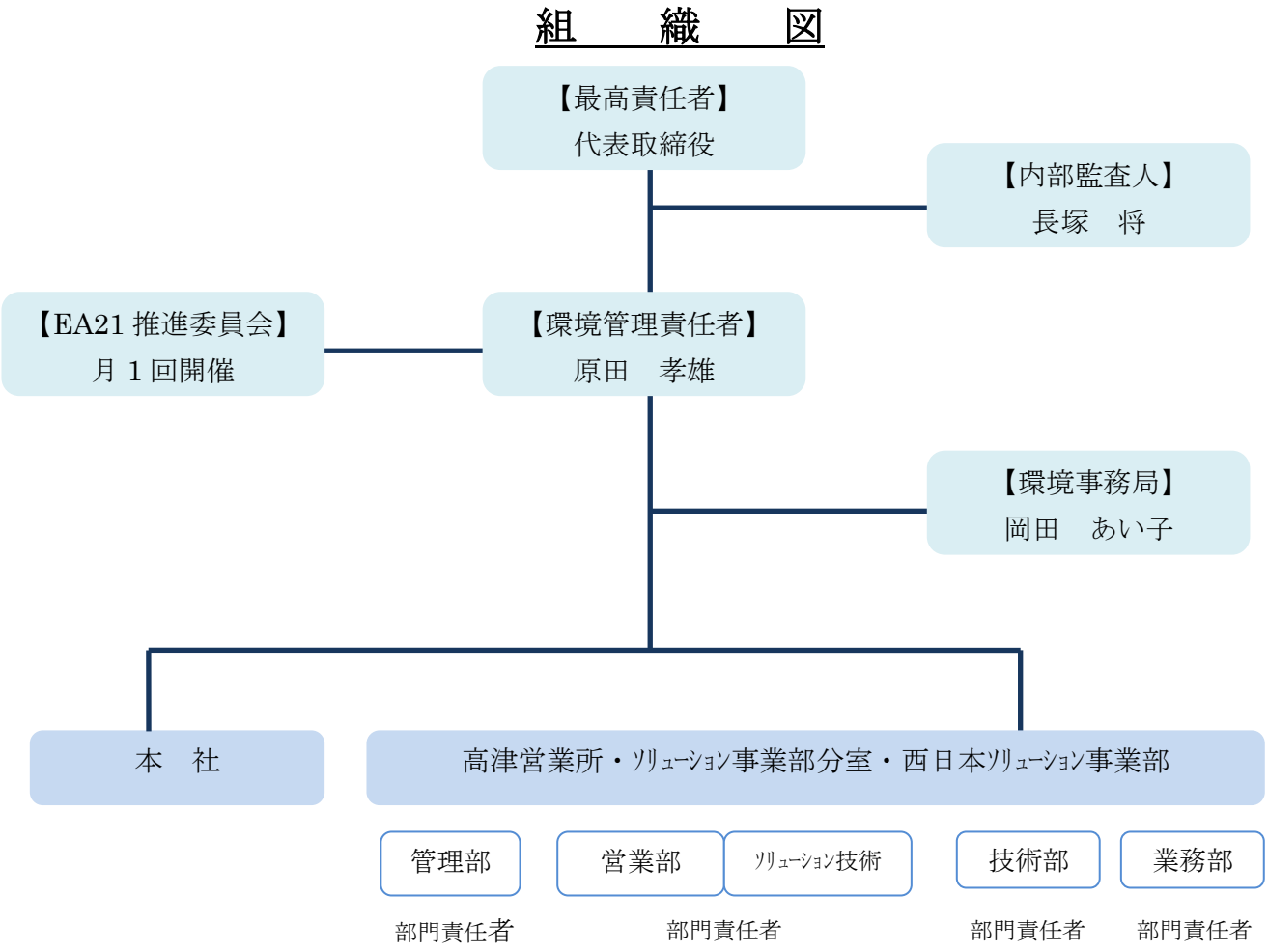
(3)売上高(2011年1月～12月)
■株式会社長塚電話工業所（株式会社ビューッテックとの連結売上）
553百万円

■EA21推進組織図

当社 EA21（エコアクション21）の運用組織を下記の通り定める。

EA21推進組織図

当社 EA21（エコアクション21）の運用組織を下記の通り定める。



（注）ソリューション事業部分室は平成 24 年 5 月に開室。平成 25 年 2 月 1 日 EA21 認証登録の審査予定。

■環境目標とその実績（環境負荷実績と環境目標比較）

58期の環境目標、削減目標を下記のとおりに定め、環境活動に取組みました。

１．主要な環境目標と環境負荷・実績

環境目的 項目	57 期 2011/1-12	58 期 2012/1-12		59 期 2013/1-12	60 期 2014/1-12
	基準実績	目標	12 月	目標	目標
二酸化炭素の排出抑制 単位 Kｇ－CO2/百万売上 （排出係数　0.384）	削減率	-1%	-54.5%	-2%	-3%
	17.38 注１（13.31）	17.21	7.91	17.03	16.86
焼却処理廃棄物の 排出抑制 単位　ｋｇ/人 （年間延べ人数にて計算）	削減率	-1%	-3.2%	-2%	-3%
	8.18	8.10	7.92	8.02	7.93
水資源投入量の抑制 単位 ㎥/百万売上	削減率	-1%	-45.7%	-2%	-3%
	0.094 注１（0.072）	0.093	0.051	0.092	0.091

（注1）今年、構内常駐会社である株式会社ビューテックを吸収合併したことにより、基準となる 57 期の売上を連結して基準値を出す必要があった。ゆえに2011年の報告レポート記述の基準値は注1と記述されているが、誤りではない。

＊本社の電力使用量のうち、低圧電力はデータ入手可能であるが、従量電灯については、本社の家主さんのメーターを使用しており、使用量が不明のため、概算として総電力使用量の1/3を本社使用分としてとしている。また本社水使用量については、本社の家主さんのメーターのみで使用量が不明なために、概算として 1 か月、0.5 ㎥を水使用量としている。

西日本ソリューション事業部及びソリューション事業部分室はレンタルオフィスであるために、レンタル会社からの個別の電気使用量、一般廃棄物（テナントビル一括）及び水使用量についての情報入手が不可能であるために、上記目標値には含まれていない。

今期から、三大環境目標につきましては、2011年（第57期）のデータをベースに、目標値には原単位を採用することにしました。

①二酸化炭素の排出抑制目標は、本社、高津営業所の共通目標としています。
西日本ソリューション事業部及びソリューション事業部分室はデータ取得不可のため、数値目標は設定しませんが、排出抑制のための実施項目は他の事務所と同様に行ないます。

②焼却処理廃棄物の排出抑制目標は、本社、高津営業所の共通目標としています。西日本ソリューション事業部及びソリューション事業部分室はデータ取得不可のため、数値目標は設定しませんが、排出抑制のための実施項目は他の事業所と同様に行います。

③水資源投入量の抑制目標は、本社、高津営業所の共通目標としています。

西日本ソリューション事業部及びソリューション事業部分室はデータ取得不可のために、数値目標は設定しませんが、節水を心がけていきます。

2. 上記の主要な環境目標の他に、以下の目的も取組み推進します。

① 化学物質の管理の徹底

ヘキサン保管庫でのヘキサンの適正管理を継続して行います。共晶半田の測定も定期的に実施し、適正管理を実施します。

② 製品に関する環境配慮

個装箱省略（箱エコ）の推進、修理データの体系化と蓄積は、着実に継続実施します。ヘッドバンド交換の推進を進め、修理対応品の減少を目指します。製品に関する3Rの推進活動も充実させていきます。

③ グリーン購入の推進

積極的にエコ商品購入を進め、事務用品、備品等のグリーン購入比率70％を維持します。また、資材のグリーン調達を推進します。

④ 業務における QCD の向上

出荷計画を遵守し、配送料の不要なコスト削減に努めます。

⑤ 5S・4定の徹底

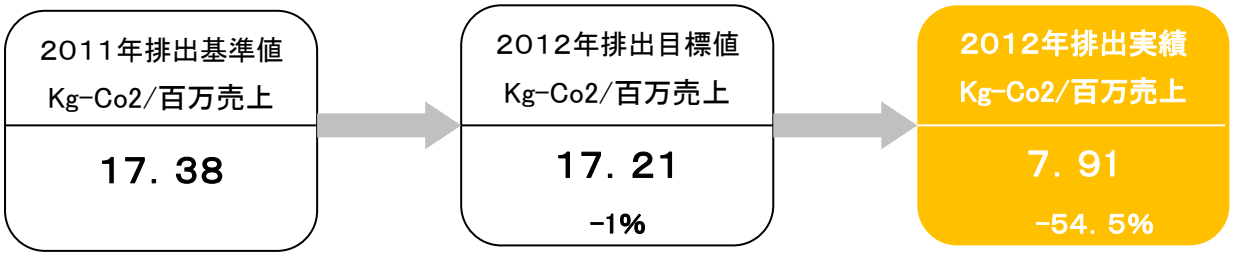
特に机の上の整理整頓を心がけます。

■環境活動の取組み内容と評価

1. 二酸化炭素の排出抑制

【取組み内容】

1)5 月～10 月給湯器の使用停止
2)サーキュレーターの使用の徹底、空調温度の適正化
3)電気機器未使用時の電源 OFF
6)エアコンフィルターの掃除



【評　価】

削減目標達成

今期より原単位を採用した。
新規事業部門の売上が予想を超えた数字となったために、2012 年の目標値を軽くクリアするという結果となった。二酸化炭素の実積排出量という側面からみると、
■2011 年　年間の排出量目標累積値　9517Kg-Co2
■2012 年　年間の排出量実績累積値　9855Kg-Co2
ということで、若干増加している。売上増加と連動する残業時間の増加や、夏の酷暑、冬の急激な寒さが電気使用の増加の主要因であると分析できる。
活動計画は上記の4つの実施項目に重点をおき実行した。
取組結果の考察としては
① 5 月～10 月の給湯器使用の停止
　年間を通じて使用続けた 2010 年よりも約 30％の削減効果はあった。
② サーキュレーターの使用により、空気の攪拌が行われるので、効果的な冷暖房を行うことができている。
③ 昨年秋に社用車をハイブリッド車に買い替えた効果が如実に現れた。年間ガソリン使用量が前年比約 25％削減となった。
来期も売上高のアップを目指すことは当然ながら、省エネ商品の購入使用・買い替え等も視野にいれながら、Co2 排出量の実質的削減にも努力していきたい。

2. 焼却処理廃棄物の排出抑制

【取組み内容】

1）廃棄物の分別化の徹底

2）コピー用紙裏面利用の徹底、両面縮小機能の利用

3）ミスプリ防止のためのプリンタ設定確認

【評　価】

削減目標達成

原単位採用の 2 期目である。達成とみなした。

今期は社員数が増えた。人数の変動による影響を及ぼさないように Kg/人原単位採用した。ただ、内勤者が増えるということが前期末の了解事項としてあり、今期それがどのような影響を及ぼすのか懸念していたが、結果としては杞憂に終わった。意外に焼却ゴミが増加しなかった。分別化の教育、徹底が焼却廃棄物の排出を増加させなかったものと思われる。

他方、リサイクル資源ゴミであるペットボトルや缶ゴミは増加した。社員の嗜好品については、極端に介入すべきではないという方針なので、適切な分別廃棄処理を行ってもらうことで了解した。

リサイクル資源である紙（コピー用紙等）そのものの排出量は、

■2011 年　紙資源排出量　　312Kg

■2012 年　紙資源排出量　　204Kg

前年比約 34.6％の排出削減となっている。ペーパーレス化の推進、プリントアウト時の両面印刷・縮小機能印刷の駆使、昨年、コピー複合機に導入したミスプリ防止機能がかなりの効果を発揮したと考えられる。リサクル資源の一つである紙排出量自体のスリム化も今後の重要なテーマとして推進継続していきたい。

ほぼ一人当りの年間に排出する焼却ゴミの量が一定になってきたと思われる。この数値を指標として、来期は他の三大環境目標値と同様に売上の原単位を採用して、新たな段階に進んでいきたい。

3. 水資源投入量の抑制

【取組み内容】

1）節水に努める

【評　価】

削減目標達成

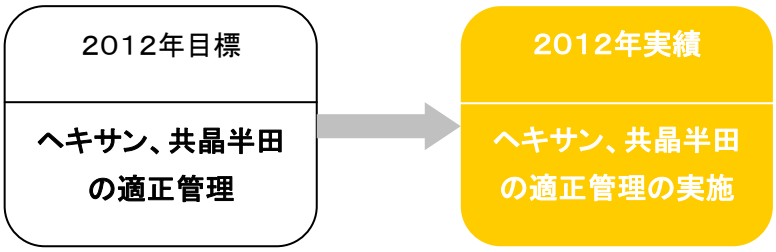
　原単位採用の 2 期目である。
売上が大幅に向上したことにより、結果大幅な削減率の達成となった。
社員数が増加したことにより、水道使用量は前期比 124.3%と増加した。内勤者が増加したことが水道使用量の増加の原因である。水道使用は事務所系としての使用目的であるので、今期の実質的な増加は許容範囲である。今後も引き続き、節水に努力していきたい。

4. 化学物質の適正管理

【取組み内容】

1)ヘキサンの適正管理・使用記録

2)共晶半田の計測と適正管理



【評　価】

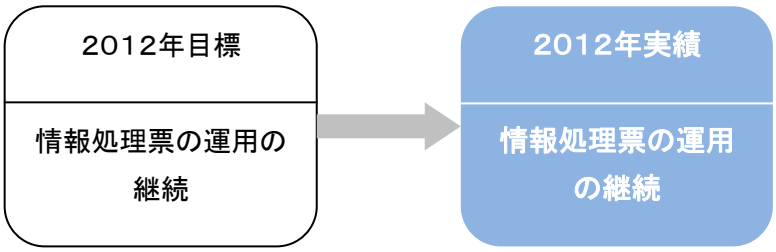
目標達成

EA21 活動の当初からヘキサンの代替品を探っていたが、良いものがみつからなかった。結局代替品探しをやめ、今期新規購入した。ただし、購入量は 3Kg と最小限に留めての運用とした。活動計画における2つの実施項目を日々きちんと実行しており、問題はない。今期は新たな社員を有機溶剤作業主任者講習会に参加させ、体制の強化も図った。
活動は継続維持していくことが重要である。

5. 製品に関する環境配慮

【取組み内容】

1）修理データの蓄積
2）箱エコの推進と広報活動
3）「情報処理票」の運用の継続
4）ヘッドバンド交換の推進
5）製品開発における3R の推進



【評　価】

目標未達成

上記5つの実施項目を達成すべく活動したが未達成となってしまった。
未達成の最大理由は今期重要課題としていた「情報処理票の運用の継続」ができなかったことに尽きる。
その前に他の項目の実施状況の説明をする。
① 修理データの蓄積
製品の修理内容の傾向がわかり、技術的改善面がデータによる「見える化」で実感するという効果がある。改善課題も把握できるようになってきて、新製品等の開発にも役立つ情報が蓄積されている。
② 箱エコの推進
社内においては完全に定着した活動である。お客様事情に依存するために、年々数字を右肩上がりにできるものではないが、今期もまた5、129 箱の箱エコが実現できた。来期もまた継続させていくつもりである。
③ ヘッドバンド交換の推進
修理対応ではなく、お客様が「Do It Your Self」できるものについては、自ら交換作業をして頂きましょうということを推進している。ホームページ上での広報、修理対応したお客様へのチラシ配布。劇的な数字の変化はないが、お客様がこの活動を認知していることや、実際に「Do It Your Self」でヘッドバンド交換頂き始めたお客様情報が営業を通じてもたらされている。地味な活動であるが、弊社にもお客様にも環境にも優しい活動なので、継続は力なりと信じて活動していきたい。
④ 製品開発における3R の推進
これはなかなか難しく、推進する状況が生じてこないために結果の出しようがない。というのは実情である。
さて情報処理票の運用の継続である。弊社の弱点である「書類が回せない」の最たるもの。情報とし

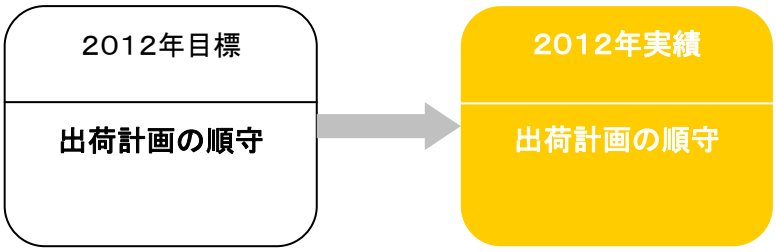
て遺していくことが会社の財産と考えて活動しだしたのだが、全く運用できていないのが実情。社員に対する周知徹底が必要であるが、その周知を強力に進める核となるリーダーが必要である。実行させるためにはどうするのか？をきちんと確立しなければ、今後も同じ状況に陥る。このことを反省材料として来期活動に生かしたい。

6. 業務における QCD の向上

【取組み内容】

1）出荷計画の順守

2）きめ細かい輸送手段の選択



【評　価】

目標達成

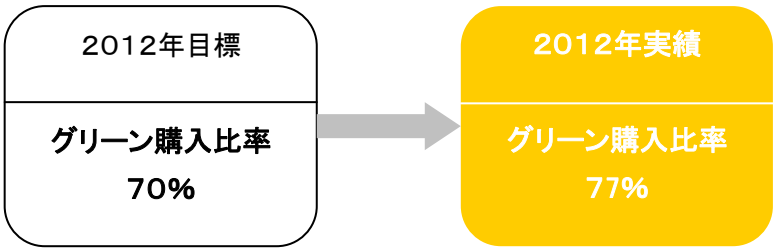
今期から新たに加えた環境目的である。三大環境目標が実績値ベースで行き着くところに行き着いた感があり、環境経営の“経営”部分に意識が移動してきた一つの特徴的目標である。
前期までは、タイムサービス利用の出荷がまま発生しており、その利用理由が判然としない面があった。
今期、出荷計画の順守という実施項目を社員に周知させたことにより、安易にタイムサービス利用ができなくなったことが達成できた大きな要因である。
注文から出荷の流れがスムーズにいくようにすることは、低コストの維持安定に繋がる。このことを意識しながら、営業業務に励むことが必要である。
不必要・過度なサービスは正すべきである。一方で必要なところにコストはかける。メリハリのある業務活動はエコノミー的にもエコロジー的にもエコ的となる。
きめ細かい輸送手段の選択という実施項目も達成できた。業務では基本的にはヤマト運輸を使っているが、納品場所・出荷物数等を考えて、赤帽を使用することもあった。コスト面及び納品トラブル防止を考えての選択であり、成功したと考えている。QCD の Q＝Quality。製品の質向上は当然ながら、注文から納品まで、フローがトラブルなく済むこともまた一つの Quality と考えられる。そのためには、良きケースバイケースもまたありで、今後もこの活動を継続していきたい。

7. グリーン購入比率の向上

【取組み内容】

1)エコ商品購入の推進

2)グリーン調達の推進



【評　価】

目標達成

今期は 77%の達成となった。事務消耗品はエコ商品の購入を推進しているので、現段階では可能な限りのグリーン購入率となっている。今後、新たなエコ商品の登場にはアンテナを張り、使用可能なもの、便利なものはグリーン購入アイテムに追加していきたい。

弊社のグリーン購入枠には入っていないが、グリーン購入したものとして次の2つを紹介しておきたい。

① 社員作業着

グリーン購入担当者以外の社員が担当となり、作業着の購入をした。

その作業着がエコ商品であったことに、EA21 活動の効果を実感できた。

② お得意様配布用のカレンダーのエコ化

金具使用のカレンダーから金具不使用かつ古紙パルプ配合用紙使用のものに切り替えた。

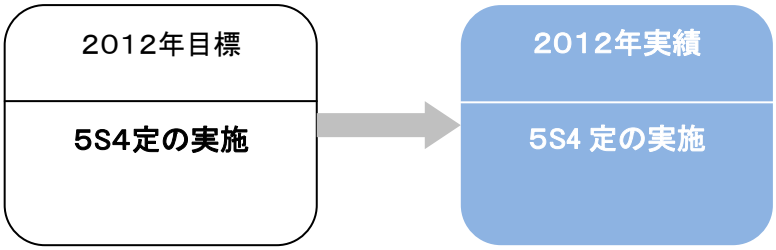
カレンダーの最後に残る金具の始末が厄介であることを実感していたので、切り替えることができたのは良い取組みである。

今後も取組みを継続していく予定である。

8. 5S・4定の実施

【取組み内容】

1）机の上の整理整頓



【評　価】

目標未達成

「たかが」机の上の整理整頓。でありながら、未達成であるというのは情けない話である。
何を持って整理整頓されているのかという基準を明確にしておく必要はあった。また、どうやってチェックを入れ、改善要求を出すのかも明確でなかったことは反省材料である。
整理整頓の基準の明確化・チェックポイント設定・チェック体制の確立。まずはこの3点を決めて、社員全体に示すことが必要である。この反省を踏まえて、来期も5S4定活動をより絞り込んだ形で目標に掲げ、社員の躾に重点をおいていきたい。

代表者による全体の取組状況の評価と見直し

三大環境目標はすべての目標において原単位を導入した初年度となりました。二酸化炭素の排出抑制及び水資源投入量の抑制においては、売上基準の原単位を採用しましたが、今期は売上高が予想を遥かに超えたために（前年度比の約 2 倍以上）、目標値はラクに達成できてしまったというのが現状です。原単位のベースとなる実績値を分析した場合、社員数の増加や夏季休暇を通常状態に戻した等の負荷のかかる要因が増したにもかかわらず、実績値が昨年並みで推移したのは、エコ活動の深化だと思います。

水の使用量につきましては、内勤社員の増加が数値アップにダイレクトに反映しており、使用量は増加となりました。そこを原単位採用により目標クリアさせています。

焼却処理廃棄物は Kg/人原単位を採用しているので、社員増加によるマイナス変動はありません。データの流れをみてみますと、ほぼ前年並みに推移しており、データの正確性が認識できたように思います。この目標もそろそろ頭打ちの傾向にあり、来季から Kg/売上の原単位採用も視野にいれる必要があると思います。

原単位採用のメリットデミリットが見えた 1 年でした。大したエコ活動を行わなくとも売上が上がれば目標値はクリアできてしまうとういう悪魔的なロジックがあります。そのような悪しき状態にならないように原単位前の実績値チェックは重要だと思います。やはり日頃のエコ活動意識がベースであり、その土台が堅固だからこそ、原単位によって美しい家が建つのだと考える必要があります。

今期から新たに加えた環境目的に「業務における QCD の向上」があります。QCD を考えることは会社経営そのものを考えることに繋がります。現場で改善した方が良いことを取り上げました。会社の意志として環境目的に採用したことは、社員の意識に変化を及ぼしたように思います。昨年までは頻繁に発生した宅配のタイムサービスが少なくなりました。やはり会社の意志を周知させることで、不必要なタイムサービス利用の抑止力になったのです。

会社としてのルールはきちんと守るという、ごく基本的なことを周知させることが力となりました。今後もこのような視点にたち、会社にとってメリットになることを実施項目として取り上げ、スマートな会社にしていきたいと思います。

「業務における QCD の向上」は「製品に関する環境配慮」と同等の重要性も持つ目標となりそうです。様々な角度からメスを入れることができそうで、楽しみでもあります。

この環境経営活動を通して、一つずつ問題点を洗い出し解決していきたいものです。

5S4 定は実にシンプルですが達成できない課題です。達成できない原因は、5S4定の内容を具体的に示すことなのではないでしょうか。お題目を唱えるだけでは達成できない。具体的な指針を作り、それを順守させる。計画には具体性が必要と思われます。そして、それを順守させる手段も具体性が必要であり、強靭な精神力・強力な推進力が求められます。

その点をよく考えて来期計画がうまく機能するようにしてほしいものです。

今年は新入社員が増えました。つい手薄になりがちな EA21 活動の教育ですが、EA21 活動もまた社員の重要な仕事であるということを認識させるためには、きちんと教育を行うことが必要です。会社規模が大きくなるにつれて社員の EA21 意識が希薄にはならないようにすることが大切です。

来期は、三大環境目標については、すべて同じ原単位（売上高）を採用した方が良いと思います。今期売上が飛躍的に伸びたので、目標値の基準年度を変更する必要があります。また新たな一歩を踏み出すことになります。売上高だけにとらわれることなく実績値にも目を光らせて、活動が鈍ることのないよ

うに活動していきます。拠点が増えることで、まとまり感が薄くなる傾向にありますが、アイデアを出して、社員が一丸となって EA21 活動を推進するよう頑張っていきたいと思います。

■環境関連法規制の遵守状況

(1) 当社に適用となる主な環境関連法規

適用法令	該当する活動	遵守状況
目黒区廃棄物の発生処理抑制、再利用の促進及び適正処理に関する条例・規則	・事業系一般廃棄物等の排出方法、有料ゴミ処理券の貼付 ・廃棄物分別化の徹底	遵守
川崎市公害防止等環境保全に関する条例	・生ゴミの適正処理、環境洗剤の使用	遵守
消防法	・5S 活動-保管庫の適正管理 ・管理責任者の明記、使用手順書による取扱 ・消火器の設置	遵守
労働安全衛生法	・排気装置の点検 ・専用洗剤の用意と手洗いの実行	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・廃棄物の分別化の徹底 ・廃棄物処理業者との委託契約、契約終了後の保管 ・マニフェストの交付、回収の日程管理、保管 ・管理票報告書の提出	遵守

(2) 過去 3 年間は違反はありません。

また、関係機関等からも特に指摘はなく、訴訟も同様にありませんでした。